

平成 27 年度の学校評価

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

- (1) 「入れる学校」から「入りたい学校」へ
  - ア 特進コース、一貫コース、女子生徒の入学増を図る。
  - イ 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進を図る。
  - ウ 授業に取り組む生徒・教員の姿勢の向上を図る。
  - エ 生徒の家庭学習の定着を図る。
  - オ 生徒が自信を持てるようにきめ細かい指導を行い、学力不振者減少の努力を継続する。
  - カ 授業を大切にし、わかりやすい授業に心がける。
  - キ 年間退学率を 2.5%未満にとどめるよう、生徒一人一人の指導に配慮する。
  - ク いじめを許さない学校風土の醸成を図る。
  - ケ 授業評価や公開授業のアンケートに基づく教員の意識改革とレベルアップを図る。

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外部	(1) 募集定員を確保する努力 (2) 特進・一貫コースの特色の発信 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信 (4) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化	(1) 教育力の高さをアピールする。 (2) 本学園の教育制度を活用し、高大一貫教育の推進と女子生徒数を増やす方策を検討する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努め、定員を確保する。 (4) 学習・部活動や学校行事等、元気で魅力ある学校をPRする。	(1) 生徒数の確保を目指し、中学校訪問だけでなく、近隣の塾等を訪問し、本校の教育のアピールを行った。 (2) 本校の教育制度を理解してもらうために、大学の広報の方にも中学校訪問に同行してもらい、中学校に高大連携等の理解を図った。 (3) 第1回の学校見学会を平日に開催し、すべての部活動体験を実施するとともに、毎回の学校見学会を工夫することで、例年より多くの参加者を募ることができ、推薦入学の72.7%が学校見学会参加者であった。
総務部	(1) 災害発生時の対応の強化 (2) 修学旅行の見直し (3) 朝読の総括	(1) 放課中の避難訓練の模索、検討をする (2) 修学旅行の行き先の検討を行う。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。	(1) 予備日も天候不順のため、防災訓練が実施できなかった。次年度への課題である。 (2) 修学旅行先の検討を行い、平成29年度修学旅行の行き先を沖繩に決定した。 (3) 朝読の取り組みの状況は良い。自分自身で読む本を準備するような積極的な取り組みを指導していきたい。
教務部	(1) ICT教育対応に向けての準備検討 (2) 退学率の減少を図る (3) 教務システム更新の検討	(1) 電子黒板の利用により、基礎学力の定着向上につながる授業展開の工夫をする。 (2) 問題を抱える生徒の情報を共有し、それぞれの立場で早期に対応する。 (3) 様々なデータの保管・管理を見直す。	(1) 授業アンケートを改訂し、生徒が良いと感じている授業を示し、教員間の授業参観の推奨等を行うとともに、ICT・アクティブラーニング教育に向けての準備・資料収集を行った。 (2) 教育課程・学年運営・教育相談の各委員会を通じて、生徒個々の生徒の状況(成績・履修状況・出欠・行動)を把握・共有し、それぞれの立場で早期に対応し、退学率を下げることができた。 (3) 新システムの導入を、平成28年度2学期から導入予定である。 (4) 授業時間の見直し、芸術授業の選択制の取り入れ、中学校向けの公開授業を実施した。
生徒指導部	生活規律の向上と良好な学習環境の確保に努める。 (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。	(1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。 (2) 問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (3) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (4) いじめによる問題行動を防ぐため、細やかな指導姿勢で臨む。	(1) 学年・担任・教育相談・生徒指導で問題点を共有し、初期対応の迅速化を図った。 (2) 身だしなみ指導の改善が見られたが、教員間のばらつきをなくすことが課題である。 (3) PTAによる街頭指導、登下校時の巡回指導、苦情等の現場対応や、各種講習会をはじめとする交通安全指導の充実に努めた。 (4) いじめアンケートをもとに面接を行う等、早期発見に努め、迅速な対応を依頼した。
特活部	(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高める。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。	(1) 文化祭のクラス参加を年度当初から推奨し実行委員を活用する。 (2) HP等の広報活動によって、部活動の実績を公表し、達成感や帰属意識を高める。 (3) 予算消化実績、顧問人数に応じた推進費配分(小規模予算に限る)をする。 (4) カウンセラー、学年会、生徒指導部との連絡を密にする。	(1) 文化祭平日開催・クラス主導型へ移行した。来年度は、計画を早めに提示していきたい。 (2) HPの広報活動は増加した。生徒会執行部・広報部と連絡調整し、活動を活性化したい。 (3) 予算化実績を明確にするため、年度末に推進費分配を行った。 (4) 教育相談委員会のあり方を、報告会にとどまらず、継続指導が効果的にできるよう、カウンセラーの援助も得て実施した。

研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修会の充実</li> <li>(2) 現職教育の模索</li> <li>(3) 学校生活における意識調査の実施</li> <li>(4) 「学校評価に関する調査」の実施</li> <li>(5) ESD活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初任者研修会(5回)、初任者研究授業(2回)を実施。</li> <li>(2) ESDに関する講演会を実施する。</li> <li>(3) 学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析。</li> <li>(4) ESD活動へより積極的に参加できる協力体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初任者に対する研修会や研究授業を実施し、報告会には多くの教員が参加した。</li> <li>(2) 生徒・教員対象のESD講演会とアンケートを実施。また、教員に対して教育相談・面接における聴き方・話し方の現職研修を行った。</li> <li>(3) 例年通り、学校生活意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析を行った。</li> <li>(4) ESD学園としての取り組みとして、講演会、学習過程におけるESD指導等の取り組みを行った。</li> </ul>
進路指導部	<p>自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路未定者を出さない。</li> <li>(2) 中部大学への進学を確保する。</li> <li>(3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名を実現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路未決定者は、進学・就職ともに0名であった。</li> <li>(2) 中部大学への進学については、併設校推薦、一般推薦、一般入試を含めて133名が合格、国公立大学には4名が合格した。</li> <li>(3) 就職は、面接をはじめとする指導結果、一次合格率が90%となった。求人も昨年度の1.5倍となり、今後も多くの企業とのパイプを大事にしていきたい。</li> </ul>
普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 3か年の学習計画に基づき学習先頭集団を育て、国公立大学への合格者を増加させる。</li> <li>(2) 中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける。</li> <li>(3) 早期の進路目標設定により、学習習慣を確立し、きめ細やかな進路指導に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語力強化のために、普通科の全体目標を英語検定に絞り、合格に導きながら、学習意欲の向上に繋げる。</li> <li>(2) 自習室の利用や家庭学習の促進等、学習支援及び学習意欲向上の方策を検討する。</li> <li>(3) 各コースの特徴を生かせるよう、コース別進路検討会の継続と、中部大学との連携理解に努める。</li> <li>(4) 基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習の中核となる生徒が、特進コースはもちろん他コースでも増加し、例年より国公立大受験者が増加した。推薦入試の受験指導力は着実に向上しているため、一般入試まで粘り強く受験させる指導が今後の課題である。</li> <li>(2) 中部大学へは普通科の約50%が合格しており、ほぼ目標を達成している。高大連携テストを試行し中部大学進学予定者へは課題等を科し、学力向上の支援を行った。英検合格率を一層向上させ、学習意欲の喚起を促す必要がある。</li> <li>(3) 進路研究会の実施により学年コース毎に進路目標の共通理解を進め、学習合宿の形態の一部変更や、小テスト見直し、学習課題掲示などで、丁寧な学習指導を行っている。</li> </ul>
機械電気システム科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰取得者の増加</li> <li>(2) 技能士受験を目指す</li> <li>(3) 進路先の開拓</li> <li>(4) 機械電気システム科の特殊性の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 受験申請等の窓口の一本化により、受験情報を得易くする。</li> <li>(2) コースに応じた、技能士受験を軌道に乗せる。</li> <li>(3) 進路指導部との連携を図ると同時に、生徒の基礎学力向上を図る。</li> <li>(4) ロボット競技会やESD活動へ、積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰取得者の大幅な増加で大きな成果を出したが、学年により資格試験や検定試験の取り組みに意識の差が見られた。</li> <li>(2) 受験種目や受験者の増加で合格者の増加がある一方、合格率の低下が見られる種目もある。</li> <li>(3) 就職については昨年度の実績と好景気の影響で良好な成果があった。</li> <li>(4) 風力及び水力発電システムの製作を実施、更なる改良と研究を推進したい。</li> </ul>
一年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>(2) 資格取得や進路指導を通し、短期的目標や長期的目標を持たせる。</li> <li>(3) 各科・コースの特徴を活かした取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション合宿や4月のHRを有効的に活用して指導を行う。</li> <li>(2) 資格取得(英検や機械電気システム科の各種検定)・補習・自習室など学習する機会を与え、継続的に指導する。また、これらの指導を通して家庭学習の大切さを理解させ、学習習慣を身につけさせる。</li> <li>(3) 普通科は、転コースや文理選択に向けて、HRや総合的な学習の時間を通して必要な情報を与え、自発的な選択ができるよう指導する。機械電気システム科は、将来の職業希望からコース選択ができるようHRや総合的な学習の時間を通して、情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高校生としての基本的な生活習慣と学習習慣の定着に重点を置いて指導を実施した。全校集会、学年集会など落ち着いて聞けるようになってきている。</li> <li>(2) 普通科は英語、システム科は数学のマナトレを基礎学力の定着と資格取得への動機づけとして実施。英検は、昨年比較で1割ほど取得状況が向上した。</li> <li>(3) 早期に進路目標を決定できるよう、進路に関わる学年集会を実施した。中部大学を中心に、学科の説明をはじめ、就職指導も行った。</li> <li>(4) 学年会・朝礼後の打ち合わせ等で教員間の温度差が出ないよう工夫をしたが、教員間のコミュニケーションが課題である。</li> </ul>
一二年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活で中心的役割を果たせるよう、生徒の意識向上と行動力を高める。</li> <li>(2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。</li> <li>(3) 各コース、系に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中心学年として、生活全般に対して繰り返し指導を行う。</li> <li>(2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。目標は意欲的な学習に繋げるためより高くさせる。</li> <li>(3) 実用英語検定もより上位級合格を目指すとともに、新たな資格取得に取り組みさせる。</li> <li>(4) クラス担任間や教科担任との連絡を密にし、生活・学習・進路等の状況把握と対策を速やかに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 安易な考えで行動する生徒もおり、今一步踏み込んだ指導の重要性を感じた。</li> <li>(2) 国公立大学と中部大学進学の両輪に、専門学校・就職と多岐にわたる進路希望の対応に、個別の担任指導に頼る面が多かった。保護者に理解していただくためにも、来年度に向けた指導の整理をしていきたい。</li> <li>(3) 英検に関しては、合格が目的でなく、参加すればよいという考えの生徒も見られた。校外模試には多くの生徒が受験することができ、</li> </ul>

<p>三年生</p>	<p>(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動をとれるようにする。  (2) 主体的に進路決定をし、それに向けて努力させる。  (3) コース、系に沿ったきめ細かい指導と、積極的な資格取得を目指す。</p>	<p>(1) 進路を意識し、目標のある落ち着いた生活と行動を取らせる。  (2) 主体的に進路を決めさせ、進路に添った自学自習に対して、早い段階でのきめ細やかな指導を行う。  (3) 進路を意識し、より積極的に資格取得の取り組みをする。  (4) 教員間の連携を密にし、個々の状況把握をし、生徒に応じた指導ができるようにする。</p>	<p>受験を意識する一歩となった。</p> <p>(1) 就職試験や大学入試を意識した身だしなみや行動をとる指導を行った結果特に問題なく終えることができた。  (2) 4月のHRでは、学年・クラス・コース・進路別に頻繁に自ら考える進路指導を行った。結果的に中部大学への進学者が増加した。  (3) 一貫コースは、英単語テスト、進学コースは、授業のポイントのまとめ、機械電気システム科は資格検定補習を継続的に行い、積極的な学びをさせた結果、多くの合格者を出せた。  (4) 学年会・朝礼等で、生徒の情報を共有し、関係分掌との連携を図り、問題生徒対して早めの対応ができた。</p>
<p>総合評価</p>	<p>建学の精神「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」を目指し日々教育実践を行っている。</p> <p>学習指導では、「分かる授業」の展開のために、生徒アンケートの結果から生徒が良いと感じている授業を教員間に公表し、教員間の授業参観の推奨を行うとともに、ICT活用授業の研究授業を多く開催した。また、ICT・アクティブラーニング教育に向けての準備・資料収集を行い、積極的に教員の資質向上に取り組んでいる。また、生徒の学力向上に向け、学年会での生徒の状況を学年運営委員会等で共有し、成績上位者や下位者に対して、指導の効果があがるよう検討した。</p> <p>生徒指導では、昨年からはじめた「いじめアンケート」をもとに面接を行う等、早期発見に努め敏速な対応を行うようにしている。交通安全マナーについては、交通安全講話を行い、地域からの連絡に対しては即対応し、現地で直接教員による指導を行った。教育相談委員会では、不登校傾向にある生徒には早期に対応し、スクールカウンセラーによる相談を行うとともに、教員に対しては、面接での聴き方・話し方の現職研修を行った。</p> <p>進路指導では、就職では、学校紹介者については全員合格し、特に、本年度は一次合格者が90%とすることができた。進学指導では、進路研究会の実施により学年コース毎に進路目標の共通理解を進め、学習合宿の形態の一部変更や、小テスト見直し、学習課題掲示などで、丁寧な学習指導を行っている。特に中部大学については、高大連携の取組により、本年度は、併設校推薦、一般推薦、一般入試を含めて133名が合格することができた。また、特進運営委員会を中心に継続的な指導を行い、国公立大学の一般合格者が増加している。</p> <p>機械電気システム科の、ジュニアマイスター顕彰取得者については昨年のゴールドが7名から10名、シルバーが19名から22名と増加し、特別表彰が6名出るという大きな成果を出している。</p> <p>部活動においては、少林寺拳法部が全国高校総体で、男子組演武の部で優勝。男子団体演武の部で7位に入賞したのをはじめ、男子バスケットボール部が、全国高校総体でベスト16進出、全国高校選抜優勝大会では第4位と過去最高の結果を出すことができた。また、ゴルフ部でも全国高校ゴルフ選手権、日本ジュニアゴルフ選手権、サマーゴルフジュニアクラシック大会をはじめとする全国大会に女子個人で出場し健闘している。その他では、男子ソフトボール部が中日本総合男子ソフトボール選手権高等の部で優勝をした。さらに、県大会では、愛知県高等学校優勝野球大会で優勝し20年ぶりに東海大会に出場した。男女陸上部、女子ソフトボール部、女子バスケットボール部、吹奏楽部が県大会に出場するなど活発に活動している。</p> <p>ESD活動については、各教科の授業においてESDに関する内容を全教科シラバスに記載し、授業で取り扱うとともに、全校生徒に対し講演会を行った。部活動においてESD部、総合的学習の時間において「明日のためのESD」という講座を開設するなど、ESD学園としての取組を行っている。</p>		